

#### 4 . 騒音・振動・悪臭

騒音、振動及び悪臭は感覚公害と言われており、その発生源は、工場、建設作業、自動車をはじめ、カラオケやクーラー、拡声器や畜産農業など、多種多様にわたっている。

本市は、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法及び県民の生活環境の保全等に関する条例の規定に基づき、関係工場等の監視・指導、環境騒音調査並びに国道1号などの自動車騒音・道路交通振動調査等を実施した。



自動車交通の状況

音の大きさ	め や す
120 デシベル	飛行機のエンジンの近く
110 デシベル	自動車の警笛（前方2m）、リベット打ち
100 デシベル	電車が通るときのガードの下
90 デシベル	騒々しい工場の中、犬の鳴き声（正面5m）、カラオケ（店内客席中央）
80 デシベル	地下鉄の車内、ピアノ（正面1m、パイエル104番）
70 デシベル	ステレオ（正面1m、夜間）、騒々しい事務所の中、騒々しい街頭
60 デシベル	静かな乗用車、普通の会話
50 デシベル	静かな事務所、クーラー（室外、始動時）
40 デシベル	市内の深夜、図書館、静かな住宅地の昼
30 デシベル	郊外の深夜、ささやき声
20 デシベル	木の葉のふれ合う音、置時計の秒針の音（前方1m）

(1) 騒音・振動

ア．環境騒音（一般地域）調査結果

調査日：平成24年4月12日～平成24年5月31日

調査地点：各地区・校区市民館（12地点）

調査結果：12地点のうち、11地点は昼夜とも環境基準を満たしていたが1地点（南稜地区）は夜間の基準を超過していた。

単位：デシベル（LAeq）

地区・校区市民館名	用途地域	類型	昼間		夜間	
			H24年度	H23年度	H24年度	H23年度
豊岡地区市民館	第1種低層住居専用地域	A	50	47	43	39
東部地区市民館	第1種中高層住居専用地域		48	46	44	41
本郷地区市民館	第1種低層住居専用地域		47	46	37	39
南部地区市民館	第1種中高層住居専用地域		53	50	40	42
基準値			55		45	
石巻地区市民館	市街化調整区域	B	48	47	41	40
高師台地区市民館	市街化調整区域		50	49	44	40
杉山地区市民館	市街化調整区域		49	49	41	40
南稜地区市民館	市街化調整区域		55	54	53	52
前芝地区市民館	第1種住居地域		46	52	43	40
豊城地区市民館	第1種住居地域		51	53	42	44
向山校区市民館	第1種住居地域		48	48	39	40
基準値			55		45	
二川地区市民館	近隣商業地域	C	54	51	44	42
基準値			60		50	

■ : 不適合

イ．自動車騒音調査結果（環境基準関係）

道路名	測定地点	測定期間	騒音レベル (LAeq)(dB)		評価区間		環境基準達成 戸数(戸)		調査区間 内全戸数		環境基準達成率 (%)		
			昼間	夜間	起点	終点	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
一般国道1号	三ノ輪町字本興寺	1/22～1/23	70	68	大岩町	三ノ輪町	538	467	466	539	99.8	86.6	86.5
一般国道1号	下地町字瀬上	1/22～1/23	75	72	関屋町	下地町	122	118	111	129	94.6	91.5	86.0
一般国道259号	富本町字国隠	1/22～1/23	69	64	南栄町	北丘町	501	501	498	504	99.4	99.4	98.8
豊橋環状線	向山大池町	1/22～1/23	71	64	東田町	つつしが丘	453	447	442	556	81.5	80.4	79.5
一般国道23号	梅藪町字西神	1/22～1/23	74	74	前芝町	梅藪町	76	89	52	113	67.3	78.8	46.0
伊古部南栄線	高師町字北原	1/22～1/23	68	62	西高師町	南栄町	447	448	447	448	99.8	100.0	99.8

注) 1：騒音レベルの網掛け部分は、環境基準値を超過していることを示す。

なお、全ての地点において幹線交通を担う道路に近接する空間における基準値（昼間70dB以下、夜間65dB以下）との比較である。

2：「環境基準達成戸数」及び「環境基準達成率」における「昼夜」の欄は、昼夜・夜間ともに環境基準を達成した住居等に係る戸数及び比率を指す。

ウ．自動車騒音調査結果（要請限度関係）

道路名	測定地点	測定期間	騒音レベル (LAeq)(dB)		用途 地域	区域 区分
			昼間	夜間		
① 一般国道1号	飯村町字茶屋	1/22～1/25	73	71	3	b
② 一般国道1号	下地町字瀬上	1/22～1/25	75	72	5	c
③ 一般国道259号	富本町字国隠	1/22～1/25	69	64	4	b

注) 1：騒音レベルの網掛け部分は、要請限度を超過していることを示す。

なお、全ての地点において幹線交通を担う道路に近接する区域における限度（昼間75dB、夜間70dB）との比較である。

2：「用途地域」 1 第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域

2 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域

3 第一種住居地域、商業地域

4 近隣商業地域、工業地域

5 準工業地域、工業地域

6 工業専用地域

7 都市計画区域内で用途地域の定められていない地域（市街化調整区域）

3：「区域区分」 a ……第一種及び第二種低層住居専用地域、第一種及び第二種中高層住居専用地域

b ……第一種及び第二種住居地域、準住居地域、市街化調整区域

c ……近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

工．道路交通振動調査結果（要請限度関係）

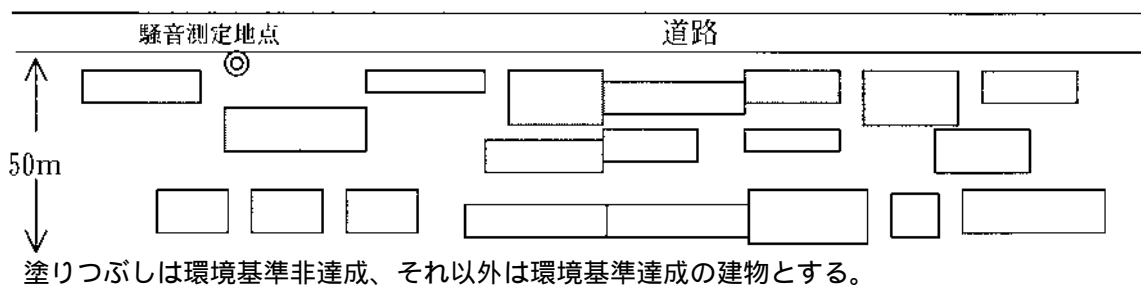
	道路名	測定地点	測定期間	振動レベル (L <sub>10</sub> ) (dB)		用途 地域	区域 区分
				昼間	夜間		
㉠	一般国道1号	飯村町字茶屋	1/22～1/23	40	39	3	1
㉡	一般国道1号	下地町字瀬上	1/22～1/23	50	51	5	2
㉢	一般国道259号	富本町字国隠	1/22～1/23	37	32	3	1

注) 1：道路交通振動については、全ての地点において要請限度を超過していない。

- 2：「用途地域」
- 1 第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域
  - 2 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域
  - 3 第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域
  - 4 近隣商業地域、商業地域
  - 5 準工業地域、工業地域
  - 6 工業専用地域
  - 7 都市計画区域内で用途地域の定められていない地域（市街化調整区域）
- 3：「区域区分」
- 1...第一種及び第二種低層住居専用地域、第一種及び第二種中高層住居専用地域、第一種及び第二種住居地域、準住居地域
  - 2...市街化調整区域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

用語の説明

- 1．環境基準  
環境上の条件について生活環境を保全し、人の健康を保護に資する上で、維持されることが望ましい基準。
- 2．点的評価  
地域を代表する騒音測定地点で等価騒音レベルを測定し、基準値と比較する評価方法である。
- 3．環境基準の面的評価  
道路を一定区間ごとに区切って評価区間を設定し、評価区間内の代表する1地点で等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)の測定を行い、その結果を用いて評価区間内にあるすべての住居等について等価騒音レベルの推計を行うことにより環境基準を達成する戸数とその割合を把握する評価方法である。



騒音測定地点での騒音レベルから、  
個々の住居等の騒音レベルを推計

環境基準を達成する住居等  
の戸数と割合を把握する

$$\text{環境基準達成率} = \text{環境基準達成戸数} (12 \text{ 戸}) \div \text{評価区間内全戸数} (20 \text{ 戸}) \times 100 = 60\%$$

- 4．等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)  
変動する騒音レベルをエネルギー的な平均値として示したものである。
- 5．要請限度  
騒音規制法又は振動規制法の指定地域において、自動車騒音又は道路交通振動が一定の限度を超えていることにより道路周辺の生活環境が著しく損なわれている場合には、市町村長は都道府県公安委員会に対し道路交通法の規定により措置をとるべきことを要請したり、道路管理者に対し道路交通振動防止のため道路の舗装、修繕等の措置をとるべきことを要請するものとしている。この限度のことを要請限度という。

## オ.新幹線鉄道

### 新幹線鉄道騒音・振動調査結果

本市は、新幹線の騒音に係る環境基準及び振動に係る指針値の達成状況を把握するため調査を行った。

調査期間：騒音：平成 24 年 5 月 18 日～ 24 日、振動：平成 24 年 5 月 25 日

調査地点：豊橋市花中町 93-60（5 月 22 日：騒音）

豊橋市小池町 95（5 月 23 日：騒音）

豊橋市山田三番町 29-11（5 月 18 日：騒音、5 月 25 日：振動）

豊橋市二川町南裏 120（5 月 24 日：騒音）

調査位置：騒音：近接軌道中心から 25m 及び 50m 離れた地点

振動：近接軌道中心から 12.5m 及び 25m 離れた地点

調査結果：新幹線鉄道騒音に関しては小池町の 25m 地点、山田三番町の 25m 地点において環境基準を超過していたが、他の地点では基準内であった。

新幹線鉄道振動については、全ての地点において指針値を満たしていた。

### 新幹線鉄道騒音調査結果

測定場所	用途地域（類型）	東京起 点距離 （km）	測定地 点側の 軌道	列車平 均速度 （km/h）	測定結果（デシベル）				環境 基準
					H24 年度		H23 年度		
					25m	50m	25m	50m	
豊橋市花中町 93-60	準工業地域（ ）	273.5	上り	221	70	65	71	65	75
豊橋市小池町 95	第一種住居地域（ ）	272.4	下り	230	73	66	71	66	70
豊橋市山田三番町 29-11	第一種住居地域（ ）	271.4	下り	209	72	69	72	67	70
豊橋市二川町南裏 120	工業地域（ ）	266.2	下り	244	70	67	69	66	75

■：不適合

### 新幹線鉄道振動調査結果

測定場所	用途地域（類型）	東京起 点距離 （km）	測定地 点側の 軌道	列車平 均速度 （km/h）	測定結果（デシベル）				指針値
					H24 年度		H23 年度		
					12.5m	25m	12.5m	25m	
豊橋市山田三番町 29-11	第一種住居地域（ ）	271.4	下り	234	59	56	58	54	70

### 新幹線鉄道騒音・振動苦情発生状況

平成 24 年度中、本市に寄せられた苦情は 5 件だった。



カ．工場・事業場等の届出の審査

平成 24 年度の届出件数は、騒音規制法に基づくもの 43 件、振動規制法に基づくもの 32 件、県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく騒音発生施設に係るもの 52 件、同条例の振動発生施設に係るもの 63 件の計 190 件であった。また、特定建設作業に係る届出件数は 3,818 件であった。届出に際し内容の審査を行い、騒音・振動の未然防止を図った。

キ．工場・事業場等立入調査

騒音・振動規制法の遵守状況を把握するため延べ 58 件の立入調査を実施し、必要な指導を行った。

ク．深夜営業騒音等に伴う立入調査

5 件の立入調査を実施し、規制基準の適合状況の把握等を行った。

ケ．届出状況

工場・事業場

区 分	設 置	使 用	変 更			承 継	廃 止	計
			構造等	数 等	氏名等			
騒音規制法	8 件	0 件	0 件	11 件	21 件	2 件	1 件	43 件
振動規制法	6	0	0	12	13	0	1	32
県民の生活環境の 保全等に関する条例	騒音	20	0	3	26	2	1	52
	振動	21	0	4	33	4	1	63
計	55	0	0	30	93	8	4	190

特定建設作業

作業の種類	届出の種類	騒音規制法	振動規制法	県民の生活環境の保全等に関する条例	
				騒音	振動
くい打機等を使用する作業		47	63	2	3
びょう打機を使用する作業		0		0	
さく岩機を使用する作業		210	209	5	5
空気圧縮機を使用する作業		129		1	
コンクリートプラント等を設けて行う作業		3		0	
バックホウを使用する作業		287			
トラクターショベルを使用する作業		16			
ブルドーザーを使用する作業		89			
舗装版破砕機を使用する作業			5		0
建築物等を破壊する作業			0	38	0
コンクリートミキサー等を使用する作業				540	
コンクリートカッターを使用する作業				325	
ブルドーザー等を使用する作業				1,092	
ロードローラー等を使用する作業				749	
作 業 合 計		781	277	2,752	8

騒音発生施設

施設の種類	届出の種類	騒音規制法 平成24年度末施設数	県民の生活環境の保全等に関する条例 平成24年度末施設数
1.	金属加工機械	994	730
2.	空気圧縮機等	2,207	3,015
3.	土石用破砕機等	148	57
4.	織機	150	12
5.	建設用資材製造機	21	1
6.	穀物用製粉機	3	16
7.	木材加工機械	653	176
8.	抄紙機	2	0
9.	印刷機械	270	10
10.	合成樹脂用射出成形機	774	240
11.	鋳型造型機	31	0
12.	ディーゼルエンジン等		138
13.	送風機・排風機		2,005
14.	走行クレーン		212
15.	洗びん機		0
16.	真空ポンプ		40
	施設合計	5,253	6,652
	工場等合計	963	901

振動発生施設

施設の種類	届出の種類	振動規制法 平成24年度末施設数	県民の生活環境の保全等に関する条例 平成24年度末施設数
1.	金属加工機械	1,231	415
2.	圧縮機等	896	3,823
3.	土石用破砕機等	121	67
4.	織機	104	0
5.	コンクリートブロックマシン	24	1
6.	木材加工機械	30	8
7.	印刷機械	112	9
8.	ゴム練用ロール機等	13	19
9.	合成樹脂用射出成形機	789	240
10.	鋳型造型機	29	0
11.	穀物用製粉機		16
12.	ディーゼルエンジン等		211
13.	送風機・排風機		3,136
	施設合計	3,349	7,945
	工場等合計	562	1,046



(2) 悪 臭

ア. 立入調査結果

平成 24 年度は、8 事業場への測定立入調査を実施し、必要な改善指導を行った。

イ. 悪臭関係工場等届出状況

県民の生活環境の保全等に関する条例により、悪臭を発生する工場等は、毎年度悪臭物質の排出状況について届出することになっている。

業 種 区 分	平成 24 年度分届出件数
1 - イ 豚房施設(豚房面積 50m <sup>2</sup> 未満を除く)	41
1 - ロ 牛房施設(牛房面積 200m <sup>2</sup> 未満を除く)	54
1 - ハ 鶏を 3,000 羽以上飼育するもの	13
1 - ニ 鶉を 20,000 羽以上飼育するもの	4
2 飼料又は有機質肥料の製造業	11
7 ゴム製品製造業	1
13 し尿処理場	3
14 ごみ処理場	1
15 終末処理場	7
計	135